

## 令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名	静岡県立沼津聴覚特別支援学校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	27人				

### 1. 使用状況

寄贈物品名	ミニ キーボード (CASIO SA - 50)
使用学年及び人数	幼稚部 8人
使用頻度	毎月2回程度 行事使用月はほぼ毎日
使用状況	本校音楽室と幼稚部教材室に保管しており、幼稚部幼児、小学部児童が音楽の学習や休み時間、行事等(発表会)で使用している。七夕会やお楽しみ会では、年長児を中心に演奏発表を行っている。
物品の使用による変化や効果  ※ 1年目との違いを含めご記入ください。	幼稚部ではコロナ禍の生活が落ち着き、友達と一緒にダンスを踊ったり、声を出して歌を歌ったりして楽しんでいる。鍵盤ハーモニカは市内の幼稚園や保育園で使用の制限がかかっていることから、鍵盤楽器の使用を控えていた時に、このキーボードをいただいた。昨年、幼児に紹介をした時は、楽器から音が出ることに喜びの歓声が沸き、次々と子供たちが楽器に触れることを喜んでいて。今年度の七夕会では、年長児が毎日練習した「きらきら星」の演奏を発表し、自分で弾けるようになった喜びと自信を感じることができ、友達や教員からもたくさん褒められた。12月のお楽しみ会でも、演奏の発表を予定しており、楽器に触れる時間も多くなる。これをきっかけに、年中や年少児の音や音楽への興味や関心がさらに高まることを期待している。
今後の活用の見通しや課題	聴覚障害の子供たちにとって、音や音楽に触れ合う機会はとても重要なことと捉えている。メロディやハーモニーを聞き分けたり、拍や拍の流れが難しい場合がある。頂いたキーボードには、音階だけでなく、様々なリズムや音色も備わっているため、聞き取れたり、身体で振動を感じたりすることができ、積極的に触れ合うことで、「もっと触ってみたい」「この曲を弾いてみたい」などと、音を楽しむ気持ちが今後も増していくよう、努めていきたい。
その他希望や所感など	今後も大切に使用させていただき、音楽の楽しさを伝えていきたいと思っております。御支援いただきありがとうございました。

## 2. 活用の様子



<休み時間の様子>



<七夕会「きらきら星」の発表>